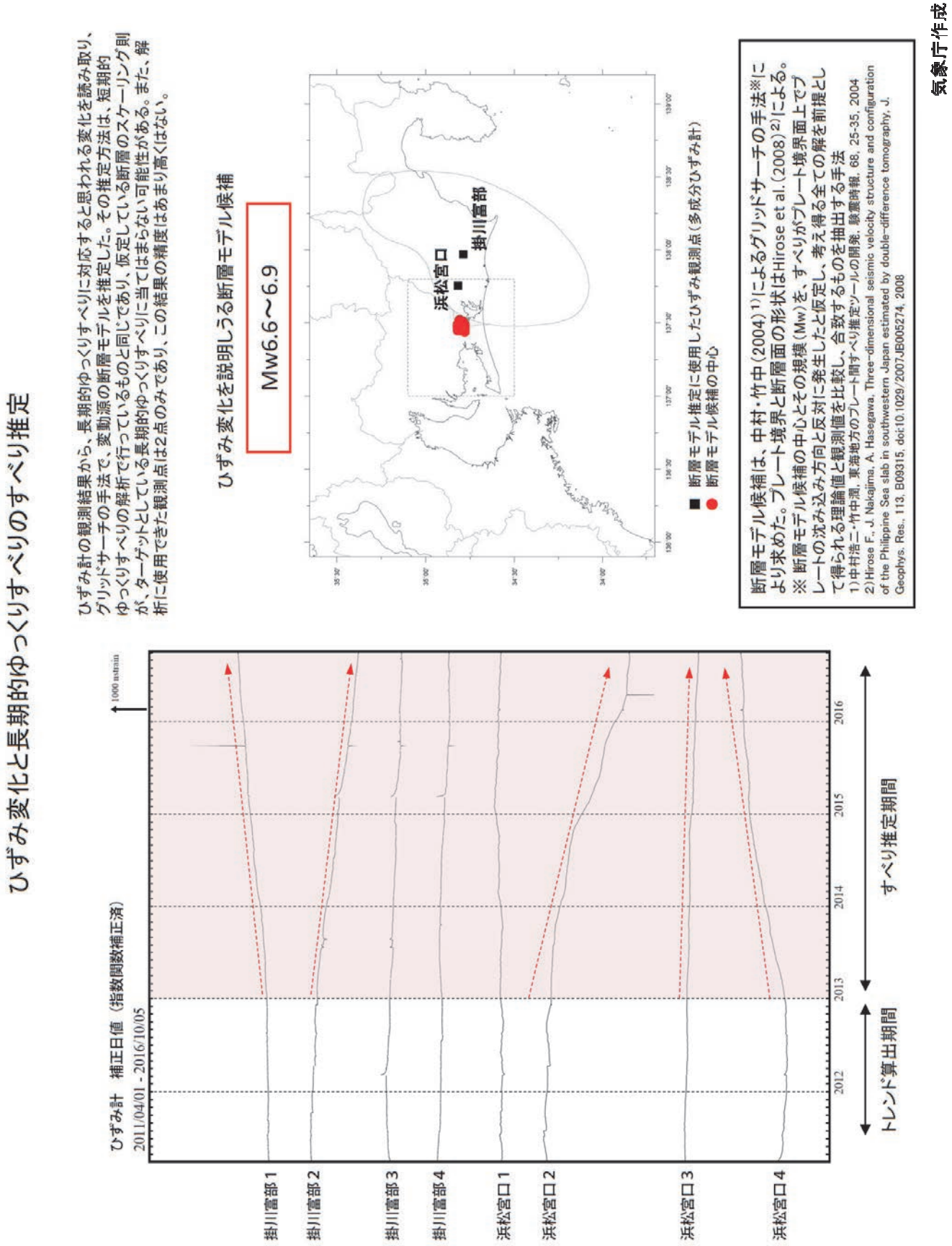

図９　ひずみ変化と長期的ゆっくりすべりのすべり推定

ひずみ日値のスタッキングによる長期的ゆっくりすべりの検出について

○各グリッドでの時系列変化

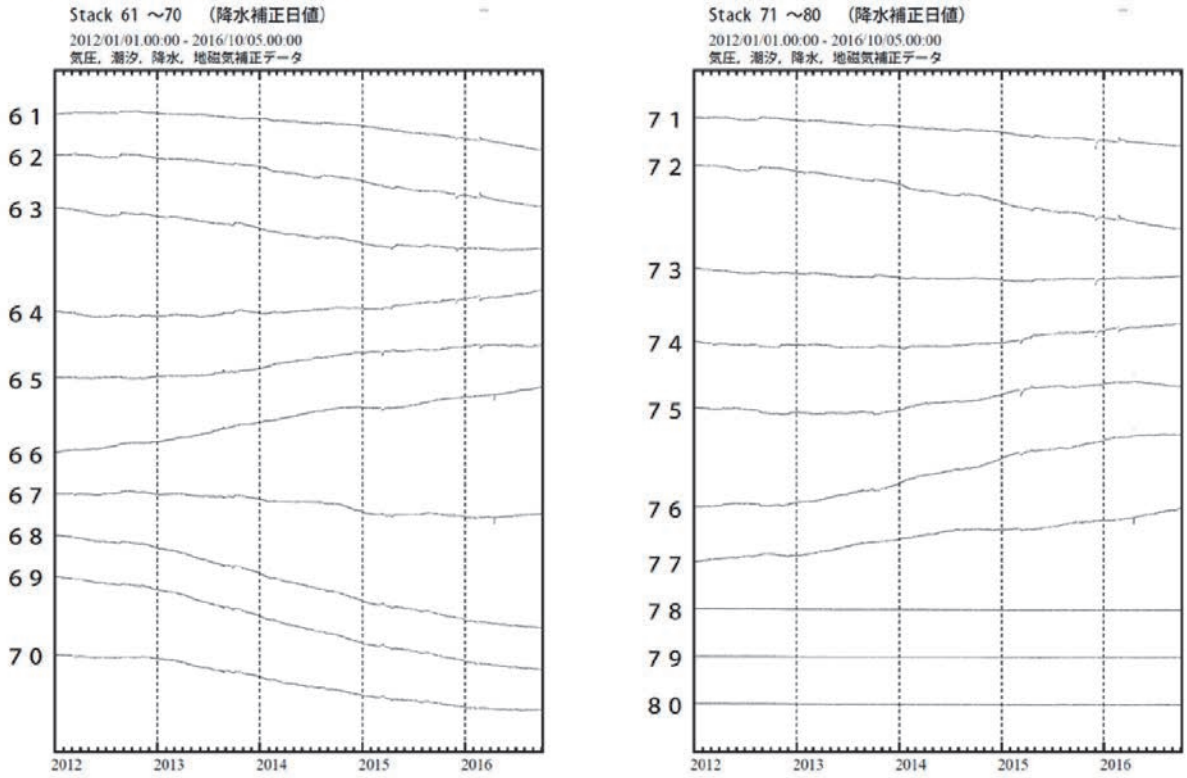

図１：日値スタッキング波形。番号は監視グリッド（図２参照）を示す。

データ　：　補正日値（体積ひずみ計と 1998 年から 2002 年整備の多成分ひずみ計）
主な地震および短期的 SSE による変化をオフセットとして除去
ひずみ計の長期変化について、指数関数で近似して補正

ノイズレベル　：　2011 年６月～2012 年 12 月の、60 日階差（単純な階差）の標準偏差

理論値計算　：　0.15°　ごとの各グリッドを中心とする、20×20km の断層

トレンド　：　2012 年７月～12 月の期間のトレンドを除去している

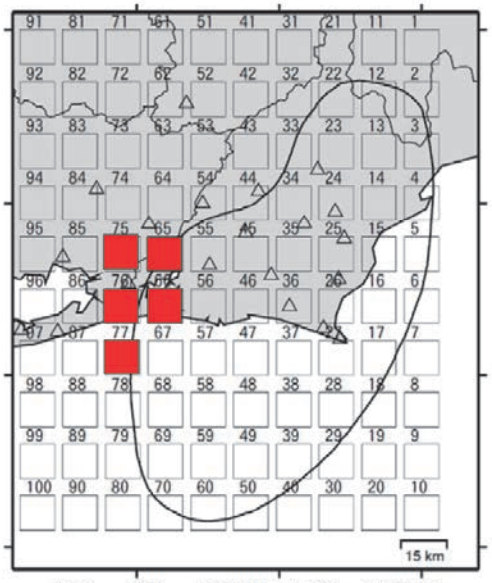

図２：グリッド配置およびすべり位置

グリッド No.65，66 及び 75～77 に明瞭な変化が見られている。総すべり量は Mw6.7 相当となる。

スタッキンググリッド

*　スタッキング手法は、複数のひずみ計のデータを重ね合わせることによって、微小な地殻変動のシグナルを強調させて、検知能力を向上させる解析方法である。

参考文献

宮岡一樹，横田　崇（2012）：地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発－東海地域のひずみ計データによるプレート境界すべり早期検知への適用－，2012，地震 2, 65, 205-218.

気象庁・気象研究所作成

図 10　ひずみ日値のスタッキングによる長期的ゆっくりすべりの検出について